



人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

2013 年 (平成25年)

3月 19日

第 9 号

# 梅花女子大学

# チャペル・ニュース

— 梅花学園創立135周年記念号 — Chapel News

発行

梅花女子大学宗教部

〒567-8578

茨木市宿久庄2-19-5

072-643-6221(代)

072-643-8997

E-mail skb@baika.ac.jp

れた博士たちは、イスラエルの新しい王になる方はどこで生まれたのかと尋ねました。新しい王とは何でしょう。新しい王は旧い王とは違う。旧い王が用いるのは旧い力。それはこの世の力、武力、権力、経済力や従う人の数の力です。そうした力で、敵対者を制圧する。人々はそうした旧い王の姿しか知らなかった。だから、ヘロデ王やエルサレムの人々は動揺した。権力を危うくする敵対勢力が現れたと慌てた。王権が覆ることは、民衆にとっても世の乱れ、戦乱の前ぶれとなる。うまく立ち回って、勝つ者の側につこうとした。この世では、支配する側も支配される側も、力をもって勝とうとする点では同じです。



## 「いのち愛つなぐ」

### クリスマスイブニング2012 クリスマス礼拝

詩人・東京大学教授 川中子 義勝

イエスの降誕を告げるマタイ福音書2章から朗読していただきました。星の徴を見て訪れた博士たちは、イスラエルの新しい王になる方はどこで生まれたのかと尋ねました。新しい王とは何でしょう。新しい王は旧い王とは違う。旧い王が用いるのは旧い力。それはこの世の力、武力、権力、経済力や従う人の数の力です。そうした力で、敵対者を制圧する。人々はそうした旧い王の姿しか知らなかった。だから、ヘロデ王やエルサレムの人々は動揺した。権力を危うくする敵対勢力が現れたと慌てた。王権が覆ることは、民衆にとっても世の乱れ、戦乱の前ぶれとなる。うまく立ち回って、勝つ者の側につこうとした。この世では、支配する側も支配される側も、力をもって勝とうとする点では同じです。

イエスの生涯は、終わりに至るまで、抑えつけられ、ひたすら堪えている人々への愛にあふれていました。「愛」を表す言葉が日本語にどれほどあるか、考えたことがありますか。「愛」という漢字に「し」と送り仮名をふってみましょう。どう読めますか。可愛いという意味の「はし」。「いとし」は分かりますね。さらに「うつくし」「いつくし」、「むし」をつければ「いつくしむ」。さらに「かなし」と読むこともできる。「かなし」とは、負けて「悔しい、残念だ」という意味ではありません。「愛し」は「めぐし」とも読めますが、「目が苦しい」との意味。「かなし」もそうです。弱い者、小さい者を見つめていると、なんとか助けてやりたい、守ってやりたいという思いが溢れて心が痛いほどだ、という意味。神の愛(アガペ)に通じる日本語です。日本語にはすばらしい言葉がありますね。

聖書には「悲しみの人」という表現が出てきます(イザヤ書53章、文語訳)。「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人にして悩みを知れり」。この「苦難の僕」の姿は、イエスを予め指し示す徴とされます。虐げられた無力な者に「愛(かなしみ)」の眼差しを注いでくださる方が、自らその辛く苦しい傷みを我が



ものとして担って下さった。イエスはそのような方だった。人が自分の方から命をつなごうとする前に、イエスご自身の方から命をつないでくださった。そのようなイエスの「愛しみ」が、地上にはつきりと姿を取った形。それは他ならぬ、私たちの命と同じ姿をとられ、人として生まれたこと。イエスが、赤子という最も無力な者の姿をとられた。これこそクリスマススの伝える福音です。

キリストの「愛しみ」に支えられた命の結びつきを受け、私たちの命の営みもまた、命のやりとり、命の結びあいの出来事となる。これは私にも覚えがあります。後半は、私自身の若い頃の経験からお話しします。ドイツの小さな町マルブルクで出会ったリユディア・ヘーネルという女性についてのお話です。

私の留学生活は、大学卒業後の進路が閉ざされたため、日本からの逃亡のように始まりました。リュックの中に二冊の本を携えて行った。その一冊に聖書を選んだのはさほど深い思い入れからではありませんでしたが、その言葉がやがて切実に響き始めます。そんな日々、ときどき教会を訪ねることもありました。それは、聖書の言葉に生きる人の姿を少し覗いてみようという動機からで、人間関係はむしろ面倒で避けたかっ

た。教会の賑わいのなか、あまり注目されないことは好都合でした。ところがある時、礼拝後に一人の老婦人に呼びかけられた。その女性がリユディアでした。「しばらく姿を見なかつた。元気でいるかどうか気になつていた。今日は人を食事に招いているから一緒に来なさい。」そう語って、すたすた先に歩いて行ってしまうた。断るきっかけが見いだし、後をついて行く羽目になりました。町の中を流れるライン川の畔に、部屋一つだけの彼女の住まいがありました。そこで慎ましい昼のもてなしを受けたのです。食事は自分で料理をした魚。食前のお祈りの後、彼女はこう言いました。「お魚は食べ方が難しいのよ。どうやって骨を取るのか見ておいで。」まるで小さい子供に教える母親のようでした。世話をやくのが楽しくてたまらないという様子に、私は、気持ちが悪く思ひ込んでいくのを覚えませんでした。

リユディアの生涯について詳しくは知らないのです。第二次世界大戦でドイツは東の領土を失いました。日本でも、満州からたくさんの方が内地へ引き上げてきたように、東プロイセンまたズデーテンといった地域の人々は、命からがら西へ逃れてきた。彼女もまた、そのような難民

の道をたどりました。つらい旅だったと思います。結婚はしなかつたそうです。「私の夫になる人は、先の戦争でたくさんさんの男の人が死んだ、その中にいたはずでした」。戦後は看護婦として勤め、引退した後は、教会の世話を受けて一人暮らし。ただその当時も、毎日のように病院に患者を訪ねるのを喜びとじていました。

一年後にマルブルクを去った一人の日本人のことを、彼女がいつまで覚えていたか。十年ほど後、再びその町を訪れたときにはもう会えませんでした。それから四十年近い月日がたつています。その教会でも世代が代わつて、彼女を覚えていて人は少ないでしょう。ただ私は、今でもことにふれて、その日のことを思い出します。彼女自身はおそらく予想もしなかつたでしょうが、それは遙かな国の一人の心に留まりつづける記憶です。

私は哲学を学びました。聖書の言葉が、学問や思想の言葉に劣らぬ真理であることを、私は思想の問題としては早くから確信していました。ただ、それが実際に生きられる真実であることを、私は彼女のような人々の生き方から学びました。それは、キリストにおける命のやりとりとして、真理が生きた形を取るこ

の徴です。イエスは五つのパンと二匹の魚を分けられました。その姿とリユディアが二重写しになるのを覚えます。イエスの愛、その「愛しみ」の形が、イエスにつながれた人間のうちに生きた形を取る。そのような命の結びを身をもって教えてくれた人として、彼女は私のかけがえない恩人ですが、それだけではありません。彼女の存在は、今もなお私の歩む道に暖かく灯っています。

キリストが、ちいさな弱い者、踏みつけられてもじっと我慢をしている者を、「愛（かな）しみ」の目で見つめてくださり、ひとりひとりの命をご自身の命へとつないでくださる。そのことを私は、リユディアのような人々の姿に認めます。クリスマススの出来事は、具体的に私たちの生活においては、そのような命を担って私たちに近づいてくれる人との交わりとして、命のやりとりとして起こるといえましよう。皆さんがそのような、キリストにある心の交わりを得て、優しい人に育って行かれることを願います。どうぞ、豊かな交わりをもたらし続けてくれる、かけがえない人との出会いを、大切にしてください。

（礼拝の講話ではもうひとり、エディトという少女についても話しましたが、割愛します。）

# 「良い物をくださる神さま」

梅花女子大学教務部国際交流グループ  
グループマネージャー 池田 康彦



私は、昨年の三月まで韓国で二十年近く暮らしておりました。妻は韓国の釜山の人で、子供が三人います。

今日は私が感じてきた神様について簡単に紹介させて頂こうと思えます。ずいぶん私の個人的な話になってしましますが、お聴きいただければ幸いと思います。まず、私がまだ幼いころに見た夢で今でも忘れない夢があるのですが、その夢を紹介させて頂きます。それは、全く肌の色の違う見も知らぬ人たちが、となり近所に住んでいて、皆がとても仲良くまるで家族のように暮らしている夢でした。しかも同じ言葉を話し、同じお金を使っていたのを覚えていません。私がこの夢を見たところから

しようか：とにかく、せっかく生まれて来たのだから「広い世界」を見てみたいと強く思うようになっていきました。瀬戸内の小さな島で育ちましたので、田舎で小・中・高を卒業し、大学になって大阪の市内にある大学に進学しました。そして皆さんと同じように大学に通いました。ところが、大学四年生になって就職活動を始めた頃から、大きな悩みと不安が私に襲いかかって来たのです。もしかしたら、皆さんの中にもそういった経験がある方がいらっしゃるかもしれませんが、「人はどうして生きるのか?」「結局、人は死んでしまうのになぜ生まれてくる必要があるのか?」といった疑問が、悩みと不安となって私にのしかかってきたのです。その頃大学の推薦を受けて、結構有名な大企業に内定をもらい、友達からも羨ましがられ、親もとても喜んでくれていました。大学からは私がどういう就職活動をしたのか後輩たちの前で話してほしいと頼まれ、大講堂で在学生たちの前で話をしたりもしました。ところが、

私の心の中には「何か違う」という思いでいっぱいだったのです。漠然と「広い世界」を見たいと思っていた私の気持ちと、私はこの会社で何がしたいのだろうか?という疑問がどんどん大きくなっていったのです。結局しばらくしてその会社を辞めることになるのですが、両親には非常に心配をかけてしまいました。その後、丁度今から二十年ほど前、私が二十五才の時に、以前縁のあった韓国に渡り、やっと「人はどうして生まれ、生きるのか?」という疑問に対する私なりの答えを得られることになりました。「外国に行く」とか「広い世界を見る」ということは、今までの自分の考え方やものの見方などを見つめなおす訓練でした。

韓国の人から見れば日本人の「すみません」は、たくさん使わずに、あまり気持ちのこもっていない言葉に聞こえるみたいです。日本にいるときは当たり前だったことが外国の人から見れば、「おかしい」と思うことがあるんだと気がつきました。そして、何よりも二十五才であった私にとって、衝撃的だったのが「私を嫌いな人がたくさんいる」という事実でした。歴史的な詳しい話は避けませんが、今でも韓国や中国には過去の戦争の傷あとがたくさん残っています。加害者は簡単に忘れても、被害者は中々忘れられないのです。今でも韓国では幼稚園の時から日本が戦時中になんか悪いことをしたかを繰り返し教育しています。現に妻も私と出会う前は日本が大嫌いだっただけです。私の子供たちは三人とも韓国で生まれ育ったのですが、韓国の幼稚園や小学校に通っている頃、三人が私を指さして、冗談ではありませんが、「お父さん、日本人」と言いながら、仲間外れにされた時は、本当に複雑な気持ちになりました。ちなみにうちの子供たちは一応三人とも韓国の名前があり、私だけが韓国の名前で周りの人から呼ばれていませんでしたので、子供心にお父さんだけが日本人と思ったみたいです。今で

こそ、韓流ブームでテレビとかにも韓国の芸能人が毎日のように出ていますが、私が初めて韓国に行った頃には考えられないことでした。当時、韓国では日本の歌はもちろん、日本の文化はすべて禁止されていた。日本の文化が解禁されたのは二〇〇〇年を過ぎてからのことです。その頃私の友人に韓国にいます。言っても、どこにある国か知らない友人も多かったです。毎年八月十五日は日本では、お盆で家族楽しく過ごしている人も多いのではないかと思うのですが、韓国では「光復節(光復)」と言いまして、日本から解放されたことを祝う祝日なのです。韓国に行ってから日本語が上手なお年寄りが多いことに、最初は喜びを感じていたのですが、後でそれは日本が戦時中に韓国語をしゃべることを禁止し、強制的に日本語だけを話すように教育したからであることがわかった時には、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

その後、私は韓国についてもっと知りたいと思いましたので、大学院で韓国語を学びながら、より多くの人に日本について知ってもらうために日本語教師として十五年ほど韓国の人々に日本を紹介してきました。妻は小さい頃からクリスチャンでしたので、妻に会ってから自然

に神様の存在について真剣に考えるようになりました。結局私が辿り着いたのは、神様がいる人生がいいのか、いない人生がいいのかということでした。答えは簡単で、神様がいらないとなると、生きることに対する疑問の答えは見つからないのですが、いるとなると答えをすぐに感じる事ができます。私たちは生まれた時から神様の願いが込められていると思います。神様の願いは、神様からの愛を受け、愛を育て、そして、その愛を分け与えることにより、平和で幸せな、神様の願う、キリスト教でいう「天国」を作ることだと、私は感じています。私が幼い時に夢で見た世界はまさにそれであり、私の求めてきた「広い世界」はそれであったと思っています。だからこそ、生きなければならぬ、たとえ体は死ぬのがわかっていても生まれて来なければならぬかと思っています。つまり、「神様がしてもらいたいと思うこと」を「私たちがする」ことが大切だということ、マタイによる福音書7章12節では仰っているのだと思っています。「人にしてもらいたいと思うこと」は個人個人色々違いますし、それが何かが中々難しいことだと思いますが、「人にしてもらいたいと思うこと」が皆神様が願うことなら、非常

にわかりやすいことだと思います。まずは自分がどれだけ愛されているか実感してください。私もそうでしたが、中々愛を実感できないという人もいるかもしれません。そんな難しいことではないと思います。おなかが空いた時に食事ができると、夜眠くなればお布団があり、家があることなど、すべてが愛であり、感謝であり、幸せを感じられることだと思います。家族がいて友達がいれば、これほど素晴らしいことはありません。そして、そんな愛されている自分を一生懸命大切にしてください。神様に愛されている自分ですから。そのあとは自分を大切にするように、周りの人も大切にしたいと思っています。人を大切にすることは、その人を理解することから始まると思います。自分だけを中心に考えるのではなく、神様の立場で人を理解しようとするは愛する心は、おのずと生まれてくることを、たくさん実感していただきたいと思っています。あまり難しく考えないでください。皆さんの笑顔一つで、愛を感じ幸せになれる人がたくさんいると思います。挨拶でもいいでしょうし、思いやりのある一言で、私も愛を受けたので、他の人にもそうしようと思う人は意外と多いはずですよ。

私が夢にも思わなかった国際結婚をし、毎日私の家では国際交流の連続であり、幸せな生活を実感しています。以前は大反対していた両親も、今では韓国にいたことや、妻が韓国人であることを喜んでくれています。本学においても立派な教職員の方々に色々助けて頂きながら、たくさんのお愛を受けています。ある意味、私の夢見た「広い世界」は実現しているのではないかと感じています。それは、私の思いもなかった形で、神様は準備してくださっていたのです。

最後になりましたが、梅花女子大にいらっしやる皆さんには是非「チャレンジ&エレガンス」でお願いしたいと思っています。「求め、探し、門をたたく」ことは「チャレンジ」です。そして、「エレガンス」であるためには、神様の愛を実感し、愛を実践するところから、真のエレガンスは生まれてくると思います。今や、グローバル社会と言われますが、もともと「グローバル」という言葉は、「世界平和」を志向する用語だったそうです。グローバル人材が求められる今、「チャレンジ精神」と「真のエレガンス」はその基本であると思います。是非、一緒にがんばりましょう！ありがとうございます。

## 「チャレンジ&amp;エレガンス」

梅花女子大学企画部広報グループ  
グループマネージャー 藤原 美紀



私は、中学、高校、大学の十年間を梅花で過ごしました。皆さんが、これが、これか

らあらゆる可能性をもって社会に出て行かれることを考え、私が十年間女子教育をうけたこと、女性が生きに行くこと、社会で働き続けることを自分自身の体験を中心にお話させていただきます。

卒業後は、アパレルメーカーに就職をしました。営業部に配属され、百貨店の営業の担当となりました。文学部出身の私は、一般教養科目として「経済学」などを学んだ程度の知識でしたので、営業会議に出てもわからない言葉の連続でした。その上、中学から女子高で学んでいた私にとっては、「男尊女卑」というような社会体験が皆無でしたのでその点でも驚きの連続でした。当時の私は、良いことは良い悪いことは悪い

という単純な考えでしたので、それらの矛盾を上司に言う、「営業成績をあげてからもう一度言いに来るよ」と言われました。周囲を見ていると売り上げ成績の良い先輩は発言権があるなと思います、これは、営業成績をあげればいいのだと思いました。

自分の担当の前年対比の売り上げをあげれば良いわけですから、目標があきらかになり、仕組みがわかると結果がどんどんでるので、仕事がおもしろくなりました。しかし、ある日、営業にでかけた際、花が咲いているのを見て、「私は、毎日通っている道に花が咲いていることも気づかなかった」ということに愕然としました。大学時代は、創作ゼミということもあり、同級生とは文学の話をはじめ、文化的な舞台や音楽のことを話していました。そういうところに身をおいていたのに、季節の変化にすらまったく気づかなかった自分に驚きました。そして女性の十年先輩、二十年先輩を見たときに、十年後の自分を考え、退職することを決

意しました。

その後、サラリーマンはやりたくないなと思い、じっくり考えるために海外旅行をしました。タイに梅花中学時代からの親友が滞在していたので、タイ、マレーシア、ブルネイといった東南アジアに数ヶ月滞在し、いろいろな体験をしました。さまざまな価値観や文化風土、宗教を持ち、言葉の通じない国でコミュニケーションをはかり、現地の言葉が、後々いろんな意味で役にたっていると思います。

その後、梅花女子大学に就職することとなりました。数年前に自分が学んでいた場所に流れる空気感の大切さを感じました。十年間教育を受けた母校で「人が教育を受け社会へ旅立つ」教育現場という場所の素晴らしさをあらためて感じるようになりました。また、働く場所が母校であるがゆえに「自分自身の役割」を常に強く考え働くことになりました。私が企業で働いていた九十年代と今とでは、社会も成熟し、男女雇用機会均等法ということも当たり前となりました。表面的に緩やかに変わってきていますが、女性が社会で働き続けることはまだまだ容易ではありません。厚生労働省のデータで

も、十年前と今では、数字もほとんどかわっておらず、多くの女性は、結婚を機に退職、ついで出産を機に退職。もしくは、独身で仕事を続ける。子育て中の人は、キャリアを中断し、パートタイムや、時間に融通の利く仕事の人が多いのが現状です。子どもとの時間を考えた場合、それもひとつの働き方ですのでその働き方もあったほうがよいと思います。ただ、国のレベルで考えると、日本は、国会議員も企業における役職者も女性が少ないですし、キャリアを中断せずに管理職につくということも欧米諸国に比べても容易ではありません。

私自身一児の母です。子育ての中で、母親の方たちと接する機会がで、ここでもまた驚きました。多くの方が、〇歳児から子どもの学校や将来を考えていたり、育児休暇を取得しているのは、外資系の保険会社の営業の方と私だけでした。出産前は、十時でも十一時でも自分の納得のいくまで働くことが許されましたが、乳幼児の子どもがいると、保育園のお迎え時間もありません。そういう意味では、働き続ける場合でも工夫は強いられ周囲の協力や理解が必要になるわけです。管理職になることだけが幸せではありませんが、女

性の働き方の選択肢は増えたほうが良いと思います。アメリカで始まった、ウーマンリブ運動からのフェミニズム思想、女性学というのも時代とともに変化しています。まだまだ、女性がお茶を入れたほうがよいと思っっている男性も多いです。知識・教養として、男性、女性を区別してはいけないという程度の理解だと思っています。夫と妻の間でも、男性が育児休暇をとることは、キャリアの中断になりますので、よほどの強い決意がないとできないのが現状です。社会の受け入れ状況も小さい子どもを持つている母親は休みがちになるので採用しにくいというのが現状です。育児休業自体を取得しにくいというデータもでてきます。結婚している人で、就労している人は、わずかに二十パーセント程度だという現実があります。自分自身の意思でやめる人もいますが、その一方、環境が整わず、退職するという割合も多いこともあります。また、日本における十五歳以下の人口が十三パーセントをきり、日本の国家の経済力を考えた場合、女性の労働力も不可欠になると思われます。みなさんは、これからの生涯の中でさまざまな選択を迫られることもあると思います。今こうして、女子大学という女性だけ

の環境で学んでいます。私は、仕事柄つねづね自分の経験とともにみなさんの将来、女性の将来、女子教育とは？梅花の教育とは？梅花の魅力とは？ということをよく考えます。その中で、思うことは十代の教育を女子だけの中で受けたことで、男性、女性の役割を殆ど認識せずに学びましたので、結果性差に関してニューtralであること。一方、育児という体験をさせていただき、私の子どもは女の子ですが、性差というのはあるということも実感します。もちろん個人差はありますが、色の好みや遊びの選択など小さいときから違いがあります。「生」「死」という大きな問題から、さまざまなことまで、自分で選んでいるようでいて、実は、神様から与えていただいているのだということを実感します。娘は、神様が私たちに預けてくださり、さまざまな喜びを与えてくださっていることを実感します。お茶を女性だけがいれるのは、おかしなことであり社会が変わらなければいけないということはありません。その一方性差ではなくただれよりもお茶を上手に、飲んでいただく方に心をこめていられるかということが、実は重要なのだと思います。今これを学んで何の役に立つのか？人と比べてどうなの

か？いろんな悩みは小さなことで、すべては、神様が自分自身に与えてくださっているチャンスだと思えます。自分の前にある課題を、いやいややるのか、楽しんでやるのかでは、心持ちもまったく違います。ひとつひとつのことを同じやるならおもしろがって、感謝して、やらせていただいていると思うと本当に楽しいし、ありがたいことだと感じます。また、十代二十代のころは家族の存在も負担に感じることもありまます。さまざまな経験、体験を通して、ポジティブに努力を重ねることで自分自身の魂を磨き成長させていただいているのだと思います。梅花がキリスト教主義であることで、礼拝の時間に見えざるものに静かに心をよせ、「神様はほんとうにいるのだろうか？」と考え、自分の行いを省みるという時間は、とても貴重であったと思います。神様というと実感のわきにくい方もおられるかもしれませんが、例えばキャンパスは緑が多いですが季節が変わると、木々や花々が装いを替えます。これらのひとつひとつからも神様の力を感じ感謝できます。今日の聖句、讚美歌それぞれに、神様の御手が働き愛の力がましますのだということをご片隅にでも覚えておいていただければと思

います。真にとわれるのは、自分自身の人間力であると思います。性差を超え、女性が得意とする特性を生かすということが大事なのだと思えます。創立者澤山保羅先生が、男性教育中心の明治維新直後の日本で女子教育を苦難の道ながらめざし、真の愛と教養をもった女性の育成をもって日本の国家の未来を担うことを考えていた教育がまさに今に生きていると思います。同級生たちともよく話しますが梅花は、本当にすばらしい学び舎です。私は、今多くの人に梅花を好きになっていただくPRの仕事をしています。誇りに思える母校を、みなさんにも、四年後「梅花以上の学び舎」はないと思っただけのように、母校で働くものとして日々努力したいと思っっています。そして、自分自身なまけないようにという宣言もこめまして、「チャレンジ&エレガンス」を自ら実践することで梅花女子大学を卒業した女性として、自分自身がみなさんにはずさしくないよう、日々努力したいと思っっています。キャンパスでの日々が、みなさんにとって心から美しいエレガントな女性として生涯を送られるための、大切な学びの日々となりますことをいつも願っています。本日は、ありがとうございます。

# 「弱いつきつじつ、強いつ」

本学宗教主事 稲山 聖修



二〇一三年のNHK大河ドラマ『八重の桜』をご覧になった方はおられるでしょうか。澤山保羅先生と深い関わりのある同志社の創立者である新島襄の伴侶・山本八重の生涯を、女優の綾瀬はるかさんをヒロインに抜擢し、時折ドラマとしての脚色も加えつつ、活きいきと描いている様子に、胸をときめかせている方も多いかもしれません。山本八重が会津藩の出身であったことと、福島第一原子力発電所の事故の影響下にある福島県への支援の意味もこめてとの制作と聞き、私も時間が許せば観るようにしたい、と考えています。

ところで、山本八重の家が仕えていた会津藩は、日本史上空前の内戦であったとされる戊辰戦争におい

て、朝廷側に与せず、幕府側に立ち、過酷な歴史の荒波を真正面から受けとめようとした。その結果待っていたのは、大義名分を振りかざし進軍する「官軍」ではなく、敗れて当然の「朝敵」あるいは「賊軍」という汚名であり、その渦中、八重

自らも当時でいう砲術指南役の娘として、今でいえば一流のスナイパーとして戦ったことです。当時八重が用いていたのはスペンサー銃という七連発のライフル銃で、戦死した弟の服を身にまとい、押し寄せる官軍の兵士たちを次々と撃ち倒していった、とのこと。八重の活躍虚しく、会津の名城鶴ヶ城は陥落、戦死した人々の遺体は見せしめのために野晒しにされ、禽獣の餌食にされるがまま。ひそかに埋葬に来た親族にも、見つかり次第に厳罰が処せられました。その終焉にいたるまで徳川幕府に忠誠を誓ったはずの会津藩は、今日でいう「敗け組」となり、明治時代から大正時代にいたるまで、会津出身者は辛酸をなめ続けました。例えば、現在の青森県の下

北半島地方の開墾を強制され、飢えと寒さで亡くなった方もいました。この「会津の恨み」は、十年後の一八七七年、今度は反対に不平士族の内戦として有名な西郷隆盛率いる西南戦争の際に爆発し、会津藩出身の警察官が斬込隊、すなわち「抜刀隊」を組織し、復讐の炎に燃えて薩摩の兵士と死闘を繰り広げました。明治元年から明治十年までの日本の歴史は、怨念に満ちた内戦の連続でもあり、この中で数多の人命が落とされていったのでした。

さて、戊辰の戦から時を遡ること数年、澤山保羅先生は、長州藩の奇兵隊傘下の「吉敷吉城隊」に父・源之丞とともに入隊、江戸幕府との戦いに参加したことは、すでに今年度前期の講義でお話いたしました。

しかし不思議なことに澤山先生のその後の歩みは、長州が官軍の立場に立った戊辰戦争には行き着くことはありませんでした。澤山先生が仮にキャリアだけに関心を抱き、狭い視野での立身出世を目指したのであれば喜び勇んで戊辰戦争に従軍し、山本八重と干戈を交えていたかもしれません。しかし、戊辰戦争の間、澤山先生は、東洋でいう「徳」の実践を重んじる儒学一派である「陽明学」の研究に没頭されました。陽明学では「知行合一」、つまり、知

ることと行うことは一つでなければならぬと説きます。「人間はいかにあるべきか」。「世はいかにあるべきか」。圧倒的な軍事力の中で無残な姿で亡くなる人々の姿を、少年の頃、目に焼きつけた澤山先生は、明治以降の長州藩の藩政改革に逆らい、結局は、あの会津の人々と同じく野晒しにされた仲間の生命と引換に得たこの問いかけに、とり憑かれていったのかもしれない。しかし、どれほど学びを深めても納得できることが見つかりません。澤山先生

先生の関心が、やがて日本とは異なる文明に向けられてもおかしくない道筋。その道が、整いつつあったのではないのでしょうか。長州、いや廃藩置県施行後の現在からいえば、山口県から神戸へと向かった澤山先生は、ダニエル・クロスビー・グリーン宣教師と出会い、はじめは語学を学ぶつもりで開いた聖書の世界に吸い込まれていくのでした。儒学の書物とは違い、聖書の物語の中では、イエスの前で、女性は男性と等しい立場を与えられているのではないかと、女性は男性のなすことに口を挟まず、ひたすら慎ましやかに、という礼儀作法の教えは聖書の核とはなっていないのではないかと、これはいつたいどういうことなのか。

澤山先生がその問いを抱きながら



# 学園創立135周年 記念礼拝及び 澤山保羅先生 墓前祈禱会

2013年1月18日(金) 澤山記念館チャペル(右)・大阪市設南霊園(左)

海を渡り、グリーン宣教師の兄サムエルのもとに身を寄せたその場所はイリノイ州エバンストン。戊辰戦争の数年前に起きた、アメリカ史上最大の内戦である南北戦争の難民たちが身を寄せ合うよう集い暮らした結果、大きくなった街です。たとえ澤山先生の英語が流れるような調子ではなくても、街の人々、とりわけエバンストン第一組合教会の教会員たちは耳を傾けたでしょうし、澤山先生ご自身も自らの思いを、ときに讃美歌を、涙ながらに歌う人々の気持ちに重ねたことでしょう。もし澤山先生が、上昇志向にとりつかれた俗物であったならば、のちに結核の病に伏し、アメリカ留学の意味を見失った際、澤山先生は教会員の印象には残らなかったかもしれませぬ。けれども、自らの弱さを、さらけ出した澤山先生の正直な姿に、エバンストンの教会の人々は、かつて自分たちが味わった苦難を重ねながら、物心両面において支え続けたのではないのでしょうか。

会津藩の勇士として活躍した山本八重は、人を一人も殺めたことのない、アメリカ宣教師団体からの派遣という仕方方で帰国した新島襄と結ばれます。新島は四十六歳で、十四年の結婚生活を経た後、天に召されます。二人のあいだにはこどもは授かりませんでした。澤山先生は、二十六歳で田島たかと結ばれますが、五年後、たかは、結核で逝去、後に二十一歳で天に召される、いさ、そして、生後二ヶ月で逝去された、ちか、というお嬢様を授かりました。その後、たかは、二十二歳で天に召されます。病弱であったという点では澤山先生と新島襄は共通していますが、長く貧困と病に苦しめられたという点では、澤山先生のほうが辛かったのではないのでしょうか。しかし、新島襄はアメリカで学びを深めていたために日本の内戦に巻き込まれず、澤山先生は、病に由来する弱さを通して知った、海を越えた人々との絆の中で、「隣人を愛する」こと、そして、明治時代初期の世を覆っていた怨恨の情を清める、「敵を愛せよ」とのイエス・キリストの愛の教えを礎に、梅花女学校を創立したのでした。同志社を創立した新島襄は、梅花女学校を建てた澤山保羅先生と、困難と弱さをもにした、志を同じくする間柄であり、澤山先生は新島から牧師任職式を授かるまでにいたりしました。

二〇一三年一月十八日、梅花学園は創立一三五周年を迎えます。澤山先生が心血を注ぎ、文字通り、いのりといのちを献げた学び舎です。その梅花学園において、女子大学としての役目を担っているこの茨木キャンパスは、澤山先生の志に共鳴した、無名の農民である田中格太郎・とらご夫妻が、無償で献げた土地に立っております。チャペルにお集まりの学生の皆さん。皆さんにお願いしたいことは、どうぞ、ご自分の人生の価値判断の基準というものを、澤山先生の生涯を貫いた一念と、夫の病を恐れず結ばれた妻・たかの勇氣とに重ねていただきたいのであります。もちろん、結婚された後に新島姓を名乗った、山本八重の勇ましさも大いによろしい。八重は銃を捨て、夫と死別した後は、むしろ傷病兵を癒し、看取るという働きに身を投じます。あえて申しますならば、戦に「勝つ」という勇ましさや捨てるのです。人は弱い時にこそ強いものです。弱いときに人は自らを飾ることができなくなります。そのときにはつきりするのがその人の真価、すなわち、神から授けられた強さなのではないでしょうか。弱い時にこそ発揮された強さによって、梅花学園は建てられました。皆さんはまず人間として強くなければなりません。自分の弱さを直視する強さをもたなければなりません。そのときから、皆さんの、まことの勇氣に根ざした、強さが試されるのではないのでしょうか。

### クリスマス・ツリー点灯式

2012年11月22日(木)

澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下



### 学園クリスマス標語

—2012年度 クリスマス標語—

いのち 愛 つなぐ



### クリスマス・コンサート

2012年12月8日(土)

澤山記念館チャペル



### 大学(看護学部・食文化学部)・短期大学部クリスマス礼拝

2012年12月10日(月)

澤山記念館チャペル



### 女子大学(心理こども学部・文化表現学部)

### クリスマス礼拝

2012年12月13日(木)

澤山記念館チャペル



### クリスマスイブニング2012

クリスマス礼拝

2012年12月22日(土)

澤山記念館チャペル



小梅祭 学生礼拝

「Challenge & Elegance」

日本文化創造学科二年生 中嶋 楓



こんにちは、日本文化創造学科二年生の中嶋 楓と申します。今回のテーマ

は「Challenge & Elegance」ということば、「Challenge」にまつわる話をします。

私は大学に入ってから「人前でピアノを演奏する」ということにチャレンジしました。大学に入るまで人前でピアノを弾いて欲しいと言われて、弾いたことがなかったです。中学や高校で合唱コンクールがあったのですが、その伴奏者に立候補したこともありません。合唱コンクールは「楽譜通りにきちんと弾く」というのも点数に入るので、できる気がしなくて、立候補することはありませんでした。転機は一年生の時の「学生礼拝」です。礼拝中、讃美歌二曲、前奏、後奏の各一曲、計四曲を演奏しました。特に苦戦したのは、讃美歌でした。讃美歌について知識

がなかったのです。というのも、私は高校が仏教系の学校で、全く曲の雰囲気がちがうので、慣れるのに時間がかかりました。仏教系の高校にもきちんと教科書があります。テキストのことを「聖典」と呼び、聖典の中に収録されている曲を「聖歌」というのです。イメージするならば、聖書と讃美歌が合体した印象です。聖歌は曲の数が少なく、歌詞にはサンスクリット語やパリー語というインドの古典語が使われており、独特で「何言っているかわからない」という思いです。そんな全く違う世界の曲を演奏するのは私にとって難しいものでした。前奏と後奏は曲を自由に決めていいということでしたが、曲を決めるのに悩みました。前奏は「映画『Always 3丁目の夕日』のOpening Title」とスムーズに決まりました。題名に「Opening Title」と書いてあったことがその理由です。さらには後奏もなかなか決まらず、半年以上悩みました。悩みぬいた結果、福山雅治さんの『はつ恋』にしました。曲を決める中で、

作曲家に興味をもつようになり「この作曲家は、このドラマ、映画のBGMを作曲したのかあ」と新しい発見になり、「じゃあ、この映画の曲にチャレンジしよう」というきっかけにもなりました。「学生礼拝」は、緊張と不安が入り混じる中、なんとかやりきりました。何か、吹っ切れた感じがしました。ところで、一年生の私は、「学生礼拝」をきっかけに、自分で人前で演奏する機会を見つけました。二年生になってから、二つチャレンジしました。第一には、四月から六月まで、緑風館と学生会館の三階で昼休みにキーボードで演奏しました。毎週火曜日は緑風館、毎週金曜日は学生会館の三階と決まりました。最初はあまり反応がありませんでした。自己満足で演奏しているのではないかと思われるかもしれないと心配していましたが、徐々に反応してくれる人が増えていったので、嬉しさがこみあげてきました。第二には、夏休みに地元でピアノのオーディションに参加しました。このオーディションに合格すると年末に神戸文化ホールで演奏できるというものでした。場所は地元の区民センターにある小さなホール。私はそういうところで演奏する機会がなかったので緊張しました。出場者はほとんどが小学生で、中学生と大人

がほんの少しでした。しかもほぼ全員の選曲がクラシック音楽。そんな中、私は大河ドラマのメインテーマを演奏しました。私は、クラシックを弾くのが苦手です。理由は簡単で、自分の手が小さく、一オクターブ届かないからです。クラシックは大半が一オクターブを使う曲が多いのです。大河ドラマのメインテーマなら、弾けるかもしれないと思いました。出場している人は「小さい頃からピアノと友達です」という方々ばかり。それに比べ、私がピアノを始めたのは中学生からで（小学校四年〜六年までキーボードをしています）、独学六割、先生に教えてもらったのは四割。それでも何とか演じきりました。残念ながら、不合格でしたが、自分にとっては糧となる体験となりました。

皆さん、何かチャレンジすることを見つけてください。それはダメもとでもいい、失敗してもいいです。たまにチャレンジする前に「やめておいたほうがいいよ」と水を差すようなことを言う人もいるかもしれませんが、堂々とエレガントに、チャレンジしてください。仮に失敗しても、後々に役立つこともありますし、成長の糧となります。本日はどうもありがとうございました。

(知能に重い障がいを持つ方々の施設)  
**「止揚学園を訪問して」**

食文化学科一年生 中 舘 美 帆

八月二十日に止揚学園に訪問しました。学園はJR琵琶湖線の能登川駅から徒歩十五分くらいの場所にあります。学園の外観はすごくカラフルで遠くからでもすぐに場所が分かりました。学園に到着し施設の中を見学させて頂きました。すると、外観だけではなく施設内の浴室、トイレ、洗面所、寝室：ありとあらゆるところに利用者の方が作った絵が飾られていて、手作りの物がすごく多いなと感じました。まるで、おどぎの国のような建物でした。見学した後に、施設の方々と一緒に昼食を食べました。ご飯は、職員の方々が分担して毎日手作りしています。みんなで机を囲んで食べる食事はとてもおいしかったです。昼食後、学園の創設者である福井達雨先生とお話することができました。「手作りのものが多いけれど理由があるのでしょうか？」と質問させて頂きました。すると、福井先生は以前、職員の負担を減らすために食事の調理時に野菜などを自動で切る裁断機を入れたそうです。すると、利用者が不安定

になり落ち着きが無くなったそうです。それは、機械には心がないからです。機械では、食材は全部同じ形、人が調理をすれば形はバラバラだけど人の気持ちが進められている。自分たちのために心を込めて作っていると感ずるのでとても安心するそうです。止揚学園を訪問して「食」というのは味も大切ですが、「気持ち」も大事だと改めて気づくことができました。止揚学園を訪問することができて良かったです。



**2012年(平成24年)度 献金及び献品報告**

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きありがとうございます。今年は下記の東日本大震災の被災地(日本赤十字社をとおして)・施設・団体に、集めた献金・献品を送付致しました。皆さまのご協力に感謝しつつご報告申しあげます。

《献金送付先》

\*前期献金\*

・東日本大震災の被災地	16,000 円
・パンダ園	13,000 円
・止揚学園	13,000 円
・救世軍希望館	13,000 円
・大阪水上隣保館	13,000 円
・レバノンホーム	13,000 円
・振込手数料：郵便局	480 円

合計 81,480 円

\*後期 クリスマス献金\*

・東日本大震災の被災地	22,330 円
・救世軍希望館	22,328 円
・レバノンホーム	22,328 円
・止揚学園	22,328 円
・釜ヶ崎医療連絡会議	22,328 円
・振込手数料：郵便局	120 円

合計 111,762 円  
 総合計 193,242 円

《献品》

・【日本キリスト教海外医療協力へ】

海外国内切手 約 1,050g、外国コイン 約 225g

・バザー用品【よーいドン(豊中市簡易通所授産所)へ】

コート3着、カーディガン4着、ワンピース(半袖)1着、ジャージ類6着、サンダル2足、靴1足

・食料品 他【救世軍希望館へ持参\*炊き出し用として】

米 18kg、有機むき甘栗 2袋、味付けのり4個、味噌(米こうじ・ゆず・だし)各1個、梅干し2袋、焼のり1袋、コーヒー(粉)1袋、まる餅1袋、韓国味付海苔2袋、乾燥スープ(コンソメ)1箱、ふりかけ(かつお・まぐろ・しらす)各1箱、さけフレーク味付 1瓶、ビスケット(バターサブレ)1箱、シェーバー 1個、タオル 1箱

# 宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー（礼拝）を守ることに重点を置いて一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。



## 4月 入学式

4月2日（月） 梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部は午後1時より、澤山記念館講堂で、入学式が行われた。

聖書を読み祈る「オリブのつどい」の開催

4月17日（火）より、毎週講義期間中の火曜日に教職員のための「オリブのつどい」、水曜日は学生のための「オリブのつどい」をお昼休みにチャペル北側控え室で開催した。火曜日は旧約聖書 創世記から、水曜日は新約聖書 マルコによる福音書から輪読し、祈りの時間を持った。

「メディテーション・アワー 黙想の時間」と「アロマの部屋」の開催

澤山記念館チャペルで講義期間中の火曜日と金曜日のお昼休みに静かに音楽を聴きながら祈りの時間と空間を持つ「メディテーション・アワー 黙想の時間」を設けた。また、チャペル南側控え室では講義期間中の火曜日と金曜日のお昼休みに「アロマの部屋」を設けた。「アロマの部屋」は曜日ごとに香りが変わり、読書することも出来る。

## 5月

エンドウ豆の収穫

宗教部「オリブの庭」で収穫したエンドウ豆を学内



で販売した。売上金は前期献金に充当。

オリブの実が初めて実った「オリブ」の庭に今年初めて青いオリブの実が実った。

白ゴーヤの種を植える

「オリブの庭」に白ゴーヤの種を植えた。7月に実をつけた。

## 6月 青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。売上金は前期献金に充当。毎年、5月末から6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月4日（月）、5日（火）に収穫した。売上金の16,600円は、前期献金に充当。



身障者による美術作品の販売

宗教部では6月と11月に「口と足で描く芸術家協会美術作品」の注文を受け付け、全額、同協会に納めている。この収益は障がい者の生活費、奨学金として使われる。6月の売上金は、21,590円。11月の売上金は、17,700円。合計の売上金は、39,290円。

## 8月

「止揚学園」訪問

今年8月、8月20日（月）に、教職員3名、学生4名の計7名で訪問した。（11頁参照）

ベオグラド大学で学術会議開催

「梅花女子大学2012年度プロジェクト研究」として8月28日から30日迄、セルビアのベオグラド大学の「近代文化 スラヴと日本の対話」



学術会議が開催され、本学からは田中裕之先生、稲山聖修先生が参加、発表された。30日は、セルビア、日本、オーストリア、ロシアのウラジオストクなどの参加者と共にラバニカ修道院、マナシア修道院を見学された。

## 9月 結婚式

9月22日（土）午後2時より女子大学の卒業生の結婚式を澤山記念館チャペルで行った。司式は本学名誉教授の石川富士夫先生。奏楽は本学オルガニストの水間 泉先生。



11月 小梅祭「学生礼拝」・映画「アレクセイと泉 百年の泉の物語」上映会

11月11日（日）午前10時30分より、「学生礼拝」をチャペルで行った。「Catherine & Bogdan」と題して、日本文化創造学科2年の中嶋 楓さんにお話しとピアノ演奏をして頂いた（10頁参照）。司会はこども学科1年の諸藤鈴央花さん。オルガン演奏は、こども学科1年の林 加奈子さん。また、午後1時から、F棟701号教室で映画「アレクセイと泉 百年の泉の物語」を上映した。

クリスマス・ツリー点灯式

11月22日（木）午後5時50分から6時5分まで、クリスマス・ツリー点灯式を澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下で行った。日本文化創造学科2年の中嶋 楓さんによる前奏で点灯式は始まった。日本文化創造学科2年の今井唯衣さんの聖書朗読の後、宗教主事 稲山聖修先生の「いのち愛 つなぐ」と題してお話しがあった。そ

して「3. 2. 1. 点灯!」の合図のもと学長・宗教部長の長澤修一先生にツリーに点灯して頂いた。最後にツリーの下で、「もみの木」を皆で合唱した。スクールバスの中からも沢山の学生に見守られた点灯式であった。

梅花女子学校出身の歌人 石上露子 生誕130年記念の朗読会を開催

梅花女子学校出身の歌人 石上露子生誕130年を記念して11月26日（月）、11月29日（木）のチャペル・アワーに朗読家として活躍されている馬場精子先生に歌人 石上露子の波乱に満ちた生涯のお話しと、詩「小板橋」他、露子の作品を朗読して頂いた。



12月 クリスマス・コンサート

12月8日（土）午後1時から、チャペルにてクリスマス・コンサートを開催した。司会はこども学科1年の諸藤鈴央花さん。奏楽はオルガニストの水間 泉先生。今年100公演以上のオペラを中心にテノール歌手として活躍されている竹内直紀先生、朗読家として活躍されている馬場精子先生、同志社学生混声合唱団CCDアルママータ、梅花学園同窓会コーラスグループ「エコー 梅花」、学生、教職員、旧職員、同窓生の合計11グループの出演があった。それぞれ個性的な選曲と演奏で、来場者、出演者共に、楽しんだ。来場者は約80名。



クリスマス礼拝

12月10日(月) 午後1時より大学(看護学部・食文化学部)・短期大学のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。キャンドル点灯は、食文化学部1年阪中舞さん、藪 由佳さんにして頂いた。聖書朗読は食文化学部1年の渡辺舞能さんと水原亜依子さん。梅花中・高校の卒業生栗山明弓先生・植田奈津子先生のヴァイオリンとピアノ演奏があった。本学学園長の原忠和先生の「いのち 愛 つなぐ」と題したメッセージがあった。当日は約90名の出席者があった。



12月13日(木) 午後1時より大学(心理)とも学部・文化表現学部)のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。キャンドル点灯を情報メディアアソシエイトの小谷莉彩さんと中井佑美さんにして頂いた。聖書朗読はとも学部1年の諸藤鈴央花さんと榎岡日南子さん。梅花中・高校の卒業生栗山明弓先生・植田奈津子先生のヴァイオリンとピアノ演奏があった。本学学園長の原 忠和先生の「いのち 愛 つなぐ」と題したメッセージがあった。当日は約100名の出席者があった。

清明寮クリスマス・卒業礼拝の奨励

12月13日(木) 午後6時から、学生部主催のクリスマス・卒業礼拝を稲山聖修先生が担当された。

クリスマス礼拝・音と光のパレードの開催

12月22日(土) クリスマスイブニング2012が開催された。午後1時15分から午後2時まで、澤山記念館チャペルで、クリスマス礼拝が行われた。演奏はオルガン・ストの水間 泉先生。ゲストは詩人・東京大学教授の川中義勝先生より「いのち

愛 つなぐ」と題して奨励があった。今年もチャペルに大勢の方々に来て頂いた。(1)2頁参照。

午後4時50分から5時15分まで、学生会館前で音と光のパレード(イルミネーション点灯)が開催された。稲山聖修先生の「いのち 愛 つなぐ」と題してメッセージがあった。早稲田摂陵高等学校吹奏楽ウインドバンドによる「クリスマス・フェスティバル」「クリスマス・キャロル・ファンタジー」の演奏があった。

1月 創立135周年記念礼拝・澤山保羅先生墓前祈祷会

1月18日(金) 午前10時から澤山記念館チャペルで創立135周年記念礼拝が開催された。梅花高等学校・中学校聖書科教師の高橋詠子先生より「重荷を負う軛」と題してお話があった。出席者約140名。記念礼拝後、午後12時30分から大阪市設南霊園(阿倍野墓地)で、澤山保羅先生墓前祈祷会が行われた。「弱きときにこそ、強い」と題して、梅花女子大学・梅花女子短期大学部宗教主事の稲山聖修先生のお話しの後、有志による祈祷があった。高等学校・中学校宗教学部長の青木直人先生によるお墓の説明があった。出席者29名。



3月 卒業礼拝

梅花女子大学・梅花女子短期大学の卒業礼拝は、3月18日(月) 午前9時15分より、澤山記念館講堂で開催する予定。奨励は日本基督教団天満教会牧師の春名康範先生。出演者として、植田加奈子先生の独唱がある。ピアノ伴奏は植田奈津子先生。お二人は梅花中・高校の卒業生で姉妹。



2012年度



チャペル・アワー 感想文より

声高らかに讃美の歌を

非常勤講師 堀田啓子先生  
讃美歌は「いつくしみ深い」しか知らなかつたので、多く知れたことが自分の糧となつたと思います。今日の讃美歌の中で一番良かったのは「どんなときでも」です。単純な歌詞ですが、とても大きくて優しい気持ちになりました。

愛を行う人に：マザー・テレサに学ぶ

救世軍希望館館長 前田徳晴先生  
初めてこんな活動をしている団体を知りました。今でも心や体に傷を負った子供達が助けを求めていると思うと、とても心が痛みます。マザー・テレサもあんな偉大になるには、大きな迷いがあつたのだと思うと少し身近に感じました。

良いものをくださる神さま

本学フルーブマネージャー 池田康彦先生  
聖書に書かれていることは単純に書かれているだけで、それを経験とすること

はないと思つていたけれど、求めれば与えられるということが一番印象に残っています。周りの人のために何かするということは正直わからないけど、自分のやり方で表すことが大事だと思ひました。何のために生きていくのかを考える機会になりました。

チャレンジ&エレガンス

本学フルーブマネージャー 藤原美紀先生  
キリスト教でなくても神が守ってくれているという言葉が聴いて心が楽になった。また、梅花の卒業生が一度就職してからも、もう一度母校に帰ってくることに素敵だと思つた。私もそう思えるくらい梅花での生活を楽しみたいのにしたい。

苦しみに耐える

止揚学園リーダー 福井達雨先生  
日本人は自分を優先しすぎであると思ひました。おっしゃいましたが、その通りだと思ひました。いつでも自分の得を考え、耐え深く考えることをしませんが、自分にもそんな瞬間があつたらうと思ひます。深く考え、耐え、その先に見える光とはなんなのか？その答えを探し、これから生きていきたいと感じました。

病児の笑顔溢れる居場所の中で

パンダ園保育士 佐原良子先生  
病氣を持つて生まれることは、その子自身が悪いものではありません。授かたことで辛いこともあるかもしれませんが、その人なら出来るから神様が与えて下さつたのだと思ひました。一番心に残つたのは、「元氣という言葉は生き生きとした様子を伝えられること」と言われた事がとても印象に残っています。

オルガン音楽を聴く

オルガニスト 所 俊夫先生

私はこの大学のチャペル・アワーで初めて本格的なオルガン演奏を聴きました。それも3年生なので3回目となりました。その素晴らしい音が身に染みいるようになった気がします。聴くにも年季が必要なようです。

苦難の中で礼拝する意味

日本バプテスト同盟理事長・山下バプテスト教会

生きていく中で、自分達は必ず矛盾と出会います。その矛盾を受け入れるために、人は何かにすがり、祈るのだと思います。藤井先生のお話、とても深く響きました。

愛にしつかりと立つ者に

日本基督教団 大阪九條教会

津田先生の20歳の成人式に届いた幼稚園の先生からの手紙の話しを聞いてすごく深いなと思った。私も今までにお世話になった先生方の手紙を置いているけれど、その一通一通には想いがとても込められているだろうなと思った。

本当の色は何色だろうか

日本基督教団 千里聖愛教会

人それぞれによい個性があって、それを認めて人を憎まず、愛する心を持つことの大切さを感じました。人を見た目や一部で判断しないで、心を広く持ち、温かい心で人と関わっていききたいなと思いました。

神様からの賜物

音楽に見える情景と心の慰め  
京都市交響楽団ヴァイオリニスト

加藤 香先生

始まる前に稲山先生から、「この席はS席だよ」と言われました。その通りで、こんなに近くに聴けてびっくりでした。加藤先生の息遣いも聴こえて、ヴァイオリンを演奏しているのではなくて歌っているのかと思ってしまうほどでした。

ふさわしい時がある

ヴァイオリニスト 栗山明弓先生

20年間、自分で築き上げてきたものを全部捨てて、また一から全部を他のことと一緒にすることはとても勇気のいることだし、大変なことだと思いました。演奏がとても格好良かったです。

あなたの涙をぬぐう方

日本キリスト改革派千里山教会

牧師 弓矢健児先生

苦しんでいる友人に、「頑張れ、大丈夫」と言われると余計に苦しくなる」と言われたことがあります。それから、そういう言葉を簡単に口には口にできなくなってしまいました。今日、お話しただいたように、私は「口だけ」だったからだと思います。イエス・キリストのようにな、全てを受け止めることはできないかもしれないけれど、少しでも誰かを笑顔にできるようになればいいと思います。



葉あいにそよぐ風

日本基督教団 梅花教会

牧師 後藤 聡先生

韓国人の方のお話が、とても印象に残りました。かつての日本の行ったことも許しがたいことですが、そんな中でも一生懸命にキリスト教と共に生きた詩人 尹東柱の姿に心を打たれました。

まことの幸い

日本バプテスト同盟曾根キリスト教会

会員 川人奈々絵先生

楽しいということが、本当の幸せではなくて、辛いことを乗り越えること、その時に思うこと、人とかかわりが本当の幸せなのかなと思った。

神さまの忍耐

日本基督教団 磐上教会

牧師 成田いりし先生

仏教的な絵本の中に聖書と同じような内容の話があるというのが面白かったです。あえて何も言わないことが本人の価値観の形成につながるというのはなるほどと思いました。

真理にある自由

森ノ宮医療大学准教授 榊井靖之先生

今日は前期最後のチャペル・アワーでした。榊井先生に真理についてのお話を頂きました。少し難しいお話でしたが、これから聖書をいろいろ見ていきたいと思いました。榊井先生ありがとうございます。

一杯のコーヒーから

本学宗教主事 稲山聖修先生

言葉がわからなくても、稲山先生は心

と心のコミュニケーションを大切にされてきたのだなと思いました。私も目先のことだけでなく、心や目には見えないものを大切に出来る大人になりたいと思いました。

ねずみとおうさま

日本バプテスト同盟大阪新生教会

会員 松平季子先生

保育園が仏教だったので、「聖書」に出会うことがなかったのですが、中学生のとき、ゴスペルに出会い、そこで初めて、きちんとイエス・キリストについてのお話をお聴きました。今まで、ゴスペルなどに出会ったことを、なんとも思っていなかったけれど、本日のお話を聴いて、私も、ここに招かれたんだなと気付くことができました。

チャレンジ&エレガンス

可能性と輝きを持つ皆さんへ

本学ブルーフーマネージャー 安威和世先生

学生時代というのが、とても大切な時間なんだと思った。もつと図書館で過ごす時間を増やしていきたいなと思った。

私は私

本学職員 土井由佳子先生

土井先生の話を聴いて自分と重なるところがあるなと思いました。私も土井先生と同じようにあまり自分と言うのを受け入れられず、悩みがあっても誰にも相談できず一人で抱え込んでしまいうところがあります。今日のこの話を今後の人生に活かしていきたいなと思います。



見えないもの大切さ

本学人間福祉学科

准教授 玉置好徳先生

内側の障がいなどは見えないので、このようなバッジがあると、とても良いと思いました。これからはこのバッジをつけている人がいないか、目を配って手助けできることはしたいと思いました。

見えないけれど大切なもの

日本バプテスト同盟 我孫子バプテスト教会

牧師 熊合 稔先生

私はとても気にすることが多く、人に何か言われたらしばらく気にし続けてしまいます。今日のお話を聴いて、気にしたくないことは気にしなくてよい、自分が苦手な相手のことまで自分が引き継がなくてよい」という言葉はとても気持ちに楽になりました。

幸せが私達を追いかけてくる

滋賀県立盲学校教諭 宇野繁博先生

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」という言葉をもとに東日本大震災の時に宇野先生がされた行動は、本当にすばらしいと思いました。また、宇野先生が失明された時のお母さんの支えも感動しました。サックスと赤井浩二先生のギター演奏も、また聴きたいと思いました。

命を救った歌・音楽の力

テノール歌手 竹内直紀先生

竹内直紀先生の歌声はともきれいで大変感動しました。オペラを聴くことはなかったのですが、今日はよい機会になりました。今日一番心に残ったことは竹内先生の「音楽は心の健康によい」という言

葉でした。竹内先生の歌声を聴いてとても良い気分になりました。

あなたが大きく前進するには

本学英语コミュニケーション学科

教授 此枝洋子先生

諦めずに進めば、神は背中を軽く後押ししてくれる。それは、神は一步進む道か一步後退する道を選ばせてくれるが、私は逃げるのではなく、皆の助けをかりながらゆっくりと前進していきたい。

愛するって難しい

日本基督教団 大阪西淀川教会

牧師 森口あおい先生

私も人に嫉妬したり、やきもちをやいたりしてきたことが、今まで何度もあります。人を傷つけることや殺めるという決断は制御できないことがあるというのには感じます。周囲のあなたかさや優しさに感謝して自分らしさを大切に生きていきたいと思いました。

若き日の出会い

日本基督教団 扇町教会

伝道師 山下壮起先生

若き日の出会いによって人生の方向が思いもよらない方に方向転換するという話だった。山下先生は自分から、留学することで様々な人達、物事と出会った。より多くの出会いをして、自分を豊かにするために自分から行動して多くの体験をすることが大事なことであるように思う。



「ころ」と福音書

本学日本文化創造学科

教授 大田正紀先生

私は今まで就職のことばかり考えていたけれど、本当に大切なことは自分の人生をどのようにして生きるかということだと聴いて、確かにそうだなと思う。このころの英語のタイトルは「Search」というタイトルだと聴いて、興味を持った。「ころ」と聖書の共通点の話は聴いて面白かった。

梅花女学校出身の歌人

石上露子生誕130年記念 幻の歌人 石上露子

朗読家 馬場精子先生

すごくすごく面白かったです。馬場先生の「作品が私という人間をくぐって」という朗読家の説明の表現が素敵だと思いました。石上露子の朗読、その世界に引き込まれました。1つの物語を聴くように、本当に面白かったです。声色が違ったりして、はっとさせられることが何度もありました。梅花に来てくださってありがとうございました。衣装も素敵でした。

真に強い時

日本基督教団 摂津富田教会

牧師 大谷隆夫先生

社会問題についてきちんと考え、少しでも社会に貢献できるように頑張ろうと思つた。広い視野を持ち、幸せな人が一人でも増えるような社会になればいいと思つた。

いのち 愛 つなぐ

本学学園長 原 忠和先生

ヴァイオリンの演奏はすごく素敵でした。

た。サンタクロースの起源を聴いて、ニコライ神父という人が始まりだというのは全く知らない事でした。「神様の愛の涙」の贈り物がサンタクロースの由来というのはすごくいいと思いました。

神のなされることは皆その時になつて美しい

社会福祉法人 児童養護施設

レバノンホーム施設長 栗本一美先生

児童養護施設という言葉は知っていても、実際にはどのような施設かは知りませんでした。今回のチャペルで、養護施設について知ることができて本当に良かったです。児童虐待はあつてはならない事ですが、世間では親が悪いとひとくりに決めつけてしまつています。育児を支えあえる社会であつてほしいなと思つていました。

弱さの中に働く力

日本基督教団 京都教会

伝道師 谷 香澄先生

弱さの中に強さがある、という言葉が印象的でした。地位などを求めて、権力などを欲しがる人が多い世の中ですが、失敗や挫折、弱さを経験してこそ、強くなれるんだと改めて感じました。

神様のまなざし

日本基督教団 大阪教会

副牧師 村上修平先生

私達の生活は神様によって守られていることを知りました。そして改めて感じることができました。これからも感謝して過ごそうと思つていました。



2012 (平成24) 年度 チャペル・アワー講師一覧

(敬称略)

月曜日 3講時 女子大学 看護学部・食文化学部 短期大学部 生活科学科・英語コミュニケーション学科・日本語表現科			
月	日	奨励題	奨励者
4	16	Challenge & Elegance	稲山聖修
	23	声高らかに讃美の歌を	堀田啓子
5	7	愛を行う人に…マザーテレサに学ぶ	前田徳晴
	14	チャレンジ&エレガンス	藤原美紀
	21	苦しみに耐える	福井達雨・ 止揚シスターズ
	28	病児の笑顔溢れる居場所の中で	佐原良子
6	4	オルガン音楽を聴く	所 俊夫
	11	苦難の中で礼拝する意味	藤井勇次
	18	愛にしっかりと立つ者に	津田一夫
7	25	それぞれの道	中井大介
	2	ふさわしい時がある	栗山明弓
	9	葉あいにそよぐ風	後藤 聡
	16	まことの幸い	川人奈々絵
	23	神さまの忍耐	成田いうし
30	真理にある自由	榊井靖之	

木曜日 3講時 女子大学 心理こども学部・文化表現学部			
月	日	奨励題	奨励者
4	12	Challenge & Elegance	稲山聖修
	19	声高らかに讃美の歌を	堀田啓子
	26	愛を行う人に…マザーテレサに学ぶ	前田徳晴
5	10	良い物をくださる神さま	池田康彦
	17	苦しみに耐える	福井達雨・ 止揚シスターズ
	24	病児の笑顔溢れる居場所の中で	佐原良子
6	31	オルガン音楽を聴く	所 俊夫
	7	架け橋はあなた	津田一夫
	14	苦難の中で礼拝する意味	藤井勇次
	21	本当の色は何色だろうか	中井大介
7	28	神様からの賜物 ～音楽に見える情景と心の慰め～	加藤 香
	5	あなたの涙をぬぐう方	弓矢健児
	12	子供たちの祝福	後藤 聡
	19	まことの幸い	川人奈々絵
26	神さまの忍耐	成田いうし	

9	24	一杯のコーヒーから	稲山聖修
10	1	やさしい目が	松平季子
	8	チャレンジ&エレガンス ～可能性と輝きを持つ皆さんへ～	安威和世
	15	見えないものの大切さ	玉置好徳
	22	幸せが私達を追いかけてくる	宇野繁博
	29	あなたが大きく前進するには	此枝洋子
11	5	若き日の出会い	山下壮起
	19	“賛美の声高らかに” ～アドヴェント ・クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
	26	梅花女学校出身の歌人 石上露子 生誕 130 年記念 幻の歌人 石上露子	馬場精子
12	3	『こころ』と福音書	大田正紀
	10	いのち 愛 つなぐ	原 忠和
	17	真に強い時	大谷隆夫
1	7	神のなされることは皆その時に かなって美しい	栗本一美
	21	弱いときにこそ、強い	稲山聖修
	28	神様のまなざし	村上修平

9	27	一杯のコーヒーから	稲山聖修
10	4	ねずみとおうさま	松平季子
	11	私は私	土井由佳子
	18	見えないけれど大切なもの	熊谷 稔
	25	命を救った歌～音楽の力	竹内直紀
11	1	愛するって難しい	森口あおい
	8	若き日の出会い	山下壮起
	15	“賛美の声高らかに” ～アドヴェント ・クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
12	22	『こころ』と福音書	大田正紀
	29	梅花女学校出身の歌人 石上露子 生誕 130 年記念 幻の歌人 石上露子	馬場精子
	6	真に強い時	大谷隆夫
1	13	いのち 愛 つなぐ	原 忠和
	20	神のなされることは皆その時に かなって美しい	栗本一美
1	10	弱さの中に働く力	谷 香澄
	17	弱いときにこそ、強い	稲山聖修